



TITLE:

社史・地方史の委員会報告

AUTHOR(S):

CITATION:

社史・地方史の委員会報告. 静脩 1972, 9(1): 5-5

ISSUE DATE:

1972-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36695>

RIGHT:

——講演会

渡辺信一氏講演会 アメリカの図書館事情

〈とき：昭和47年3月17日 ところ：本館会議室〉

ハワイ大学図書館学部に留学され、昨秋帰国された京都教育大学附属高校の渡辺信一氏を迎え、昨夏訪問されたノースウェスタン大学図書館を中心に、新しいアメリカの大学図書館の事情について、スライドを使った講演があった。つねに発展を続けていくアメリカの大学図書館の新しい考え方がうかがわれて、興味深い講演であった。

——会議

昭和46年度第3回国立大学図書館協議会常務理事会

〈とき：昭和47年2月14日 ところ：本館会議室〉

46年度の第3回常務理事会は、久しぶりに本館で開催された。協議事項としては、図書館職員の交流、第2回日米大学図書館会議の件のほか、来年度の文部省図書館関係予算で認められた。情報図書館学の研究、教育体制について討議された。また、英国の東インド会社設立くらいインド独立に至るまでの、インドに関するあらゆる資料を集大成した India Office Papers を、国立大学で協力して購入していく件も、こんご具体的に検討していくことになった。

なお、同日午後は、「新しい大学図書館像」特別委員会が開催され、分担して調査をすすめている事項の中間報告が行なわれた。

近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会

〈とき：昭和47年3月30日 ところ：本館会議室〉

新年度の同協議会の事業計画案の審議のため、委員会を開催。新年度も、委員会活動と研究集会活動の2本建てで事業をすすめていくことになった。研究集会としては、参考業務、業務の機械化、及び図書館施設がテーマとして予定されている。

社史・地方史の委員会報告

前号に報告された通り、去る1月13日（木）に初めて開催されてから第2回の会合を2月24日（木）に、第3回を3月16日（木）にわたって開催した。この2回の会合では主として資料をいかなる範囲でまとめるか、各部局の資料をどういう方法でまとめるか、すなわち、資料の情報交換をどのような方法で行なうか、また実施の時点をどのようにするか、などが討論された。その結果、一応、資料の範囲としては社史業界史・地方史にしぼり、当分は附属図書館が窓口になること、第2回の委員会で資料報告は、とりあえず、昭和46年1月より同12月に至る間のものを持ち寄ることに決定した。したがって、第3回目の会合には各委員からそれぞれの部局の社史（業界史）・地方史の報告が持ち寄られ、各委員からその部局の状況と報告内容についての説明が詳細に行なわれた。

なおこの委員会は、社史・地方史などを従来あまり重要視せず、整理の充分行なわれていない部局もあるので、この機会にすすんで委員会に参加してほしいとの要望が委員の中から出された。